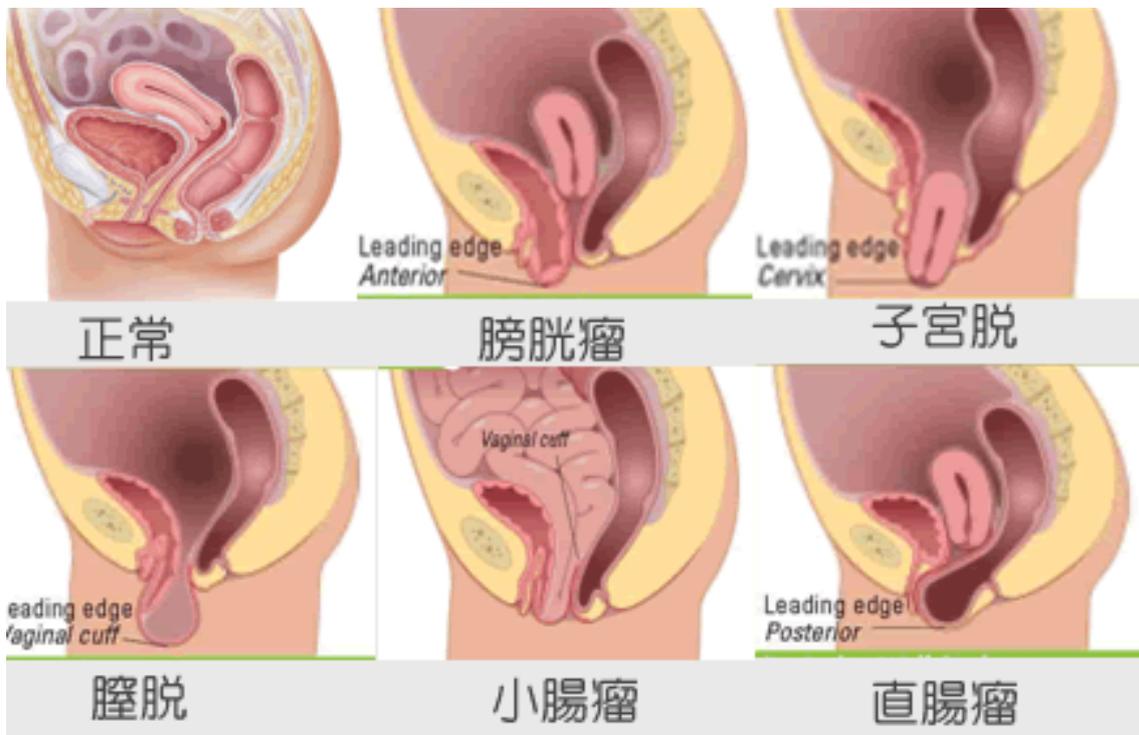


骨盤臓器脱とは

子宮や膀胱、腸といった骨盤臓器は、骨盤の底にある筋肉や靭帯などの組織によって支えられています。子宮脱をはじめとする骨盤臓器脱は、過去の出産や加齢により、その支えがゆるみ、腔から臓器が下がってくる病気で、女性にとって決して珍しい病気ではありません。過去に子宮を摘出した女性にもおこりえます。

入浴時に腔に丸いものが触れることで気付くことが多く、痛みはほとんどありません。進行すると、常に股にもものが挟まった感じで歩きにくい、尿や便がスッキリ出ないなど、日常生活が大きく制限されてきます。

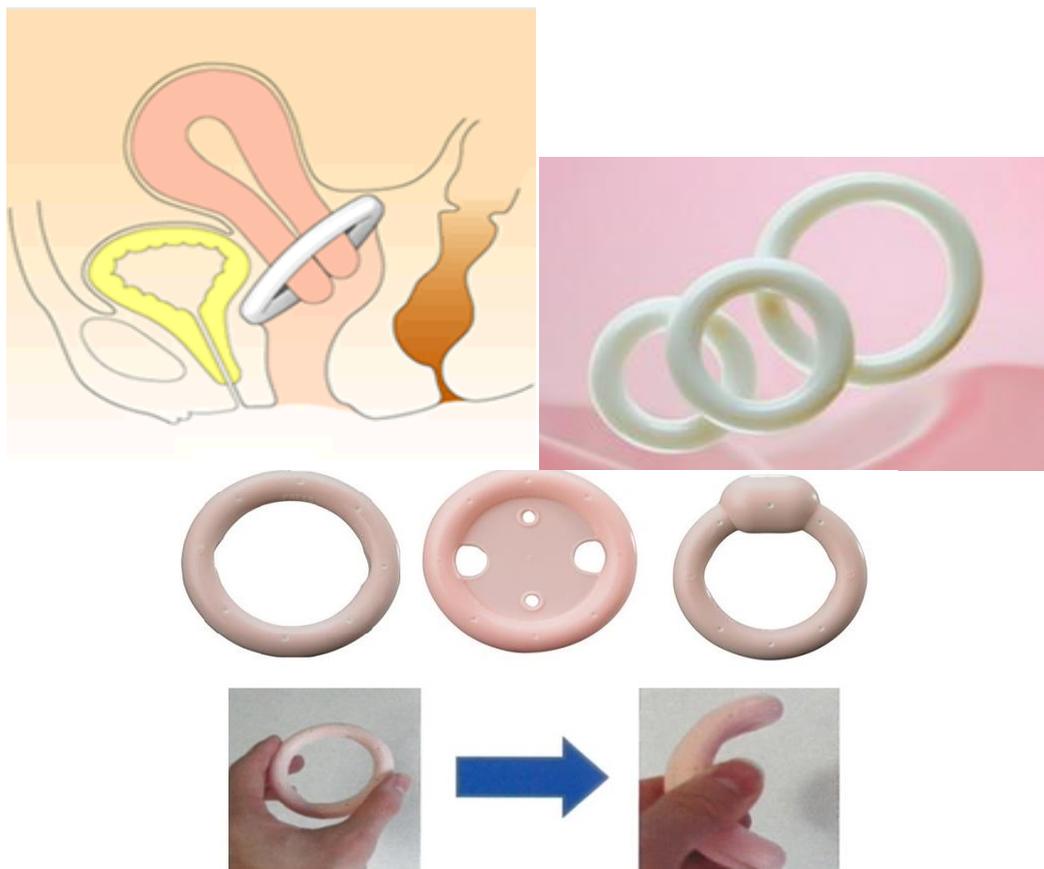


骨盤底再建外来とは

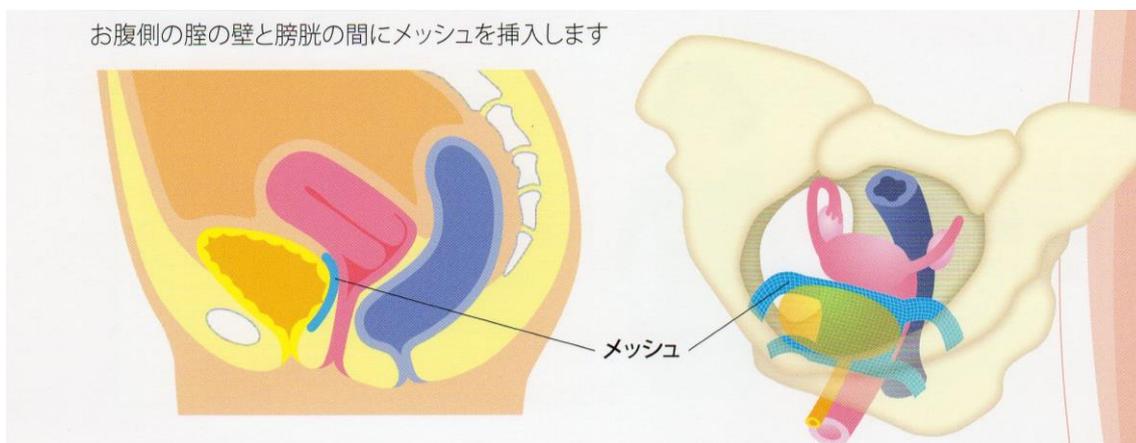
骨盤底のゆるみが原因でおこる骨盤臓器脱や腹圧性尿失禁の治療を専門的に行っている外来です。骨盤臓器脱の治療は保存療法と手術療法に分かれます。

手術をしない保存療法は、 pessary というリング状の器具を腔内に挿入し、臓器を整復する方法です。長期間 pessary が腔内にいると、腔の炎症がおきやすく、出血やおりものがふえるため、2~3ヶ月ごとの通院が必要です。

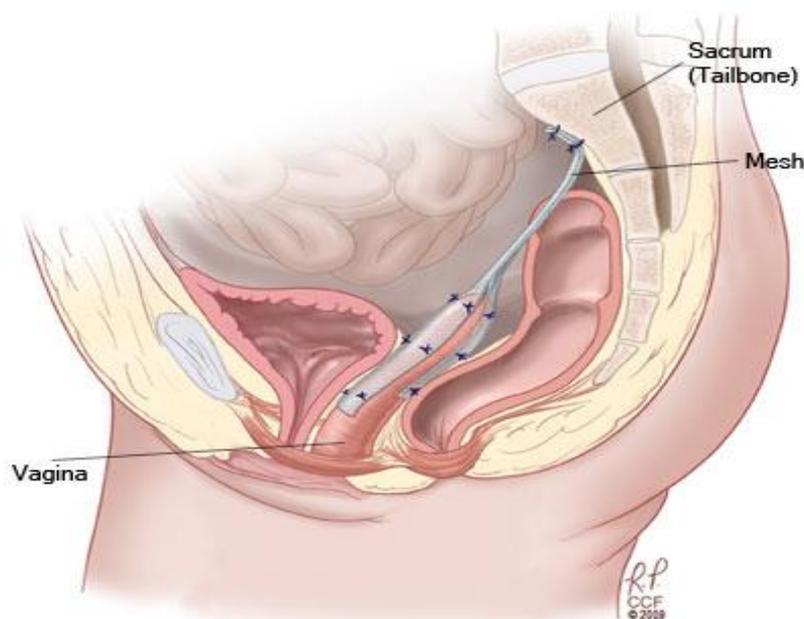
ペッサリーの出し入れを自分で行い、自己管理することで、そのリスクを減らすことができます。当外来ではペッサリーの自己着脱指導も行っています。



手術療法は、メッシュを使う方法と、使わずに修復する方法があります。メッシュを使わない方法は、膣から子宮を摘出し、膣壁を形成する手術が基本になりますが、子宮頸部（入り口）のみを切除し、子宮を温存する方法もあります。高齢の場合は、子宮を摘出せずに膣を閉鎖する、負担の少ない手術も行われます。膣からメッシュを使って臓器をハンモック状に持ち上げる TVM 手術も行っています。



いずれの手術も1週間ほどの入院です。使用されるメッシュは体内で溶けず、永く臓器を支えてくれますが、術後メッシュの不具合がないかどうか、アフターフォローが必要です。最近注目されている、メッシュを使って臓器を仙骨に固定・挙上する腹腔鏡下仙骨脛固定術(LSC)は、現在当院では行っておりません。適応の患者様には、連携施設へご紹介いたします。



最近の骨盤臓器脱の治療は目ざましく進歩しており、長年悩んでおられた多くの女性が治療により治癒しています。「骨盤臓器脱」と一言で言っても、下垂した臓器の状態や程度、その症状は千差万別です。当院の骨盤底再建外来では、専属の医師(女性)が専門的に病態を評価し、患者様それぞれのニーズに合わせた最善の治療法をご提案いたします。これまで、恥ずかしさやどこにも相談できずに我慢していた症状など、お気軽にご相談ください。

中濃厚生病院 産婦人科 骨盤底再建外来

第1、第3金曜日 14時～ (予約制)

ご予約は、産婦人科外来窓口、または電話 0575-22-2211 (代表)
(平日 14時～16時) に受付いたします。